

## 学位論文審査の結果の要旨

令和 4 年 12 月 12 日

審査委員	主 査	平尾 昭 広 <span style="float: right;">(平尾)</span>		
	副主査	沖形 尚 <span style="float: right;">(沖形)</span>		
	副主査	植井 至人 <span style="float: right;">(植井) 印</span>		
願 出 者	専攻	医 学	部門	(平成27年度以前入学者のみ 記入)
	学籍 番号	S19D736	氏名	板東 正記
論 文 題 目	Changes and Variations in Death Due to Senility in Japan.			
学位論文の審査結果	<input checked="" type="radio"/> 合格	不合格 : (該当するものを○で囲むこと。)		
<p>【 要 旨 】</p> <p>【目的】</p> <p>我が国における65歳以上人口（老年人口割合）は28.1%と報告されている。高齢者人口の増加に伴い、特徴的な死因が増加している。その中で老衰による死亡は増加傾向にあるとされるが、疫学的にも十分に検討されていない。本研究では、老衰による死亡者数の推移とばらつきを検討し、老衰による死亡に影響を及ぼす因子を検討した。</p> <p>【方法】</p> <p>1994年から2018年までの47都道府県における死因別死亡者数を取得した。対象の死因は2018年における死因別死亡者数の上位5位までの疾患（悪性新生物、心疾患、脳血管障害、肺炎、老衰）で、人口10万人あたりの死亡者数として換算した。老衰による死亡者数の推移は、Joinpoint analysis を用いて屈曲増加点を算出した。また、変動係数を5疾患ごとに算出し、死亡者数のばらつきを比較した。さらに、老衰による死亡者数に影響を与える可能性のある因子（高齢化率、単身世帯の割合、世帯収入および後期高齢者一人当たりの医療費）と老衰による死亡者数との関連を検討した。</p> <p>【結果】</p> <p>老衰による死亡者数の推移は2004年を境に有意な増加を認めた。老衰による死亡の変動係数は他の疾患に比較して有意に高値を示し、影響を与える因子としては、高齢化率および後期高齢者一人あたりの医療費が抽出された。</p>				

**【考察とまとめ】**

近年の高齢化に加え、老衰の医学的な概念や診断する医師の捉え方が違うこと、加えて死亡場所の多様化による医療介入の差異が老衰の診断に影響を与える可能性が考えられた。

老衰による死亡者数は近年増加傾向で、都道府県間でのばらつきが認められた。また、老衰による死亡者数には高齢化率と後期高齢者一人当たりの医療費が老衰による死亡者数に影響する可能性が示唆された。

**【審査要旨】**

本研究に関する学位論文審査は、令和4年12月12日に行われた。

本研究は老衰による死亡者数の推移とばらつき、影響を及ぼす因子を明らかにしたもので、老衰による死亡は2004年を境に増加傾向にあり、他の死因に比べて都道府県間でばらつきが大きく、それには高齢化率と後期高齢者一人当たりの医療費が影響することを明らかにした。本研究で得られた成果は、老衰による死亡の現状と老衰診断の今後の在り方について再考を訴えるものとして学術的に価値があると考えられた。委員会の合議により本論文は博士（医学）の学位論文として十分に値するものと判断した。

審査会においては、

- 1) 老衰以外の疾患でも社会経済因子の検討は実施したか。
- 2) 社会経済因子の選出はどのように実施したか。
- 3) 検討時期が限定的なのはなぜか。
- 4) 老衰による死亡はその他に分類されることがあるがどう考えるか。
- 5) 高齢者施設の病床数を直接説明変数として検討したらどうか。
- 6) 地域性は存在するのか。
- 7) 誤嚥性肺炎や認知症など近傍の疾患との関係性はどうか。
- 8) 諸外国においてはどうか。
- 9) 死に対しての質の側面で欧米との差を感じたか。

など多数の質問が行われた。申請者はいずれも明確に回答し、博士（医学）の学位授与に値する十分な見識と能力を有することが認められた。

掲載誌名	Healthcare 第8巻, 第4号		
(公表予定) 掲載年月	2020年10月	出版社(等)名	MDPI

(備考) 要旨は、1,500字以内にまとめてください。